

別府竹細工

～別府から日本、そして世界へ～

「別府竹細工」は別府が誇る美術工芸品です。今日まで、多くの優れた職人達はその技術を伝え、別府の竹細工を芸術工芸品にまで高めました。

技術の伝承と共に、新しい感性に刺激を受けながら、現代の生活にも合うデザインや豊富な種類を持つ別府竹細工は日本で、そして世界で、様々な場面で生活を彩っています。

問合先 商工課 ☎ 21-1132

別府竹細工の由来

江戸時代に別府温泉の名が全国に広まり、湯治客の滞在中の日用品（飯かご、味噌こし、ざるなど）を、湯治が終わると土産品として持ち帰るようになり、別府竹細工の市場が拡大し、地場産業となりました。

明治 35 年には、別府工業^{とてい}徒弟学校竹藍科が設立され、さらなる技術革新と文化の継承が行われていくようになります。

昭和 54 年には、「別府竹細工」として大分県で唯一「伝統的工芸品」に指定され、伝統技術の保護育成等の事業を行っています。

平成 27 年 2 月には、新たに 3 名が伝統工芸士に認定され、そのうち 2 名が女性として初めて認定という快挙を成し遂げています。
別府竹細工の伝統は、これからも新しい感性に刺激を受けながら、真竹のように真っ直ぐに、時には、しなやかに受け継がれていきます。

明治、大正時代には、愛媛の松山、兵庫の有馬などから高度な技術を持った職人が別府に来て、青竹を使った日用品の「青物」、油抜きした竹を使った「白物」、茶道具や花かごなど染色や漆塗りを施した「黒物」「染物」を広めていきました。

昭和 42 年には、竹の分野で初めて生野祥雲齋（別府市内成出身）が人間国宝に認定されるなど、美術工芸品の分野でも別府竹細工は、確固たる地位を築いていきました。

近年では、アドバイザーを介し、アメリカのタイ・ギャラリーの協力を得て、東京のデザイナーと共同で竹と異素材を組み合わせたジュエリー（ピアス・指輪・バッグ）を発表し、海外でも販売を行っています。

参考：別府竹製品協同組合



技術・伝統の継承

別府市東荘園にある大分県竹工芸・訓練支援センターは、日本で唯一、竹の技術を学べる公立のセンターです。

竹工芸科は2年制となっており、専門的な技術支援を受けられます。

全国から希望者が入校し、毎年10名の卒業生を輩出し、技術や伝統の継承を行っています。



日用品から美術工芸品に到るまで、先人たちの努力の火を絶やさないように日々研鑽^{さん}しています。

イメージしていたものが形になることで 得られる達成感が一番です

竹細工制作の魅力をそう語るのは、現在、竹工芸科で技術を学んで2年目の大山恵理香さん。竹細工を扱ったテレビ番組を見て、その美しさに魅かれ興味をもったことをきっかけに、関東地方から大分県竹工芸・訓練支援センターに入校しました。

お会いした時は、テーマを設定して形に表現するアート作品を制作中でした。

実習中に難しく感じることは、竹の幅や厚みをそろえることだそうです。

卒業後は、今の生活になじむものや和服に合うものを作っていきたいと笑顔で語っていました。



大山恵理香さん

暮らしと竹細工

日用品として普及してきた竹製品（別府竹細工の原点）ですが、いま、プラスチックやシリコン製の日用品や海外からの輸入品など利便性の高いもの、安価で代用できるものがたくさん社会にあふれています。

別府竹細工は時代の波に揉まれながら苦しい時期を経験しながらも、現代も日用品から美術工芸品まで、多くの人に支えられながら息づいています。

別府市から全国、世界へ発信できる「別府竹細工」に誇りを持って、市民の皆さんと共に育てていくことが重要となっていきます。身近なところから皆さんも利用してみてください。



別府市竹細工伝統産業会館で 竹細工の魅力に触れてみませんか

別府竹細工の振興と伝統技術を継承するために展示や各種イベント、後継者の育成などを行っています。

日用品から伝統工芸士の制作した竹細工の観覧のほか、竹鈴などの制作体験もできます。



住所 別府市東荘園8丁目3組

電話 23-1072

開館時間 8時30分～17時

休館日 毎週月曜日

(月曜日が祝日の場合は火曜日)

年末・年始(12月29日～1月3日)

入館料 高校生以上300円

小・中学生100円

※20名以上は割引料金があります。団体での入館及び体験学習を希望される方は事前予約をお願いします。